Cisco Directory Integrationを使用したCisco Jabberのディレクトリ連絡先ソースとしての LDAPの設定

内容

概要

前提条件

要件

使用するコンポーネント

背景説明

サービスプロファイルを使用した設定

Jabber設定ファイルを使用した設定

確認

<u>トラブルシュート</u>

関連情報

概要

このドキュメントでは、すべてのプラットフォームでLightweight Directory Access Protocol(LDAP)をCisco Jabberのディレクトリ連絡先ソースとして正しく設定する方法について説明します。この記事では、シスコディレクトリ統合(CDI)の概念についても説明します。

著者: Cisco TACエンジニア、Fareed Warrad

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Jabber 11.8以降
- Jabber設定ファイルに関する一般的な知識
- Cisco Unified Communications Manager(CUCM)に関する一般的な知識Webページ

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています

。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してく ださい。

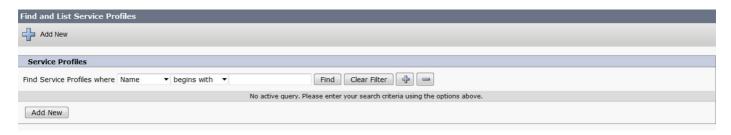
背景説明

以前のJabberは、Bridged Directory Integration(BDI)とEnhanced Directory Integration(EDI)の2種類のディレクトリ統合に依存していました。 拡張ディレクトリ統合はWindows専用であり、特定のLDAP設定を指定する場合にのみ使用されました。この理由は、Windowsではディレクトリ統合が自動的に行われるためです。Windowsはドメインコントローラに接続し、Windowsユーザ名とパスワードで認証します。一方、BDIはMac、Android、IOSなどの他のすべてのプラットフォーム用でした

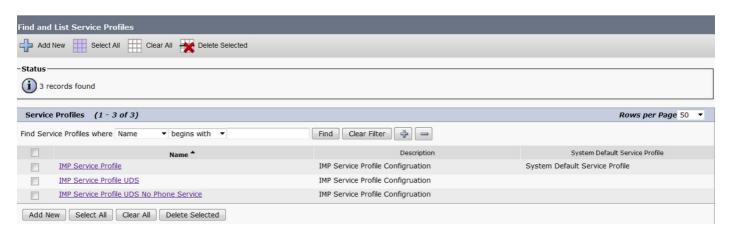
Cisco Jabberでは、Jabber DevelopmentチームがBDIのサポートを削除し、CDIを作成しました。これは基本的にEDIです。これは、すべてのCisco Jabber 11.8クライアント以降で、使用するプラットフォームに関係なく、すべてのユーザに対してDirectory Contact Source(DCE)の設定セットを1つ持つことができるようになりました。つまり、Jabber環境でBDIのみを設定したJabber Adminsの多くは、ドメインにWindowsユーザが存在するため、Windows以外のプラットフォームでJabberのLDAPサーバに接続できないなどの問題が発生します。このガイドでは、サービスプロファイルおよびJabber設定拡張マークアップ言語(XML)ファイルでCDIを設定する方法について説明します。

サービスプロファイルを使用した設定

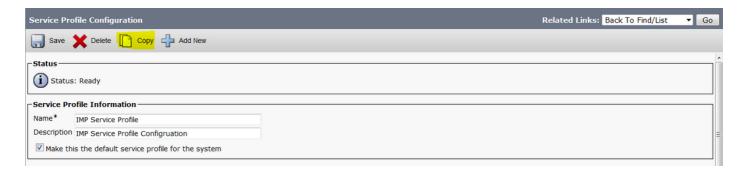
ステップ1:CUCMでサービスプロファイルにアクセスするには、[User Management] > [**User Settings**] > [**Service Profile**]に移動します。



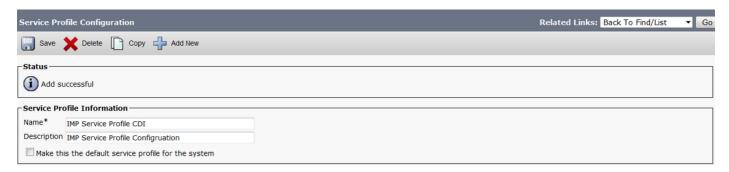
ステップ2:[検索]を選択します。



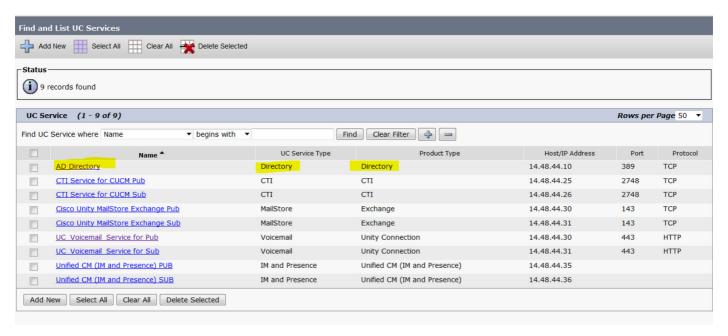
ステップ3:一部の環境では、Cisco Jabber 11.8が使用されていない場合、現在のサービスプロファイルを複製できます。管理者は、古いファイルを後で削除することを選択できます。現在の作業プロファイル(この場合はInstant Messaging and Presence(IMP)サービスプロファイル)を選択します。



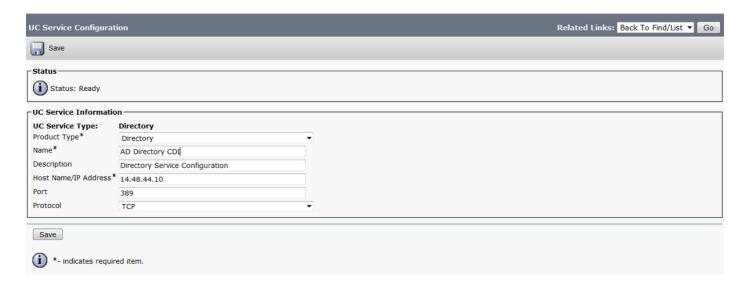
ステップ4:[コ**ピー]を選択**し、プロファイルの名前を変更して区別します。この場合、IMPサービスプロファイルCDIです。[**Make this the default service profile for the system***]*オプションをオフ**にして、[Save**]を選択**します**。



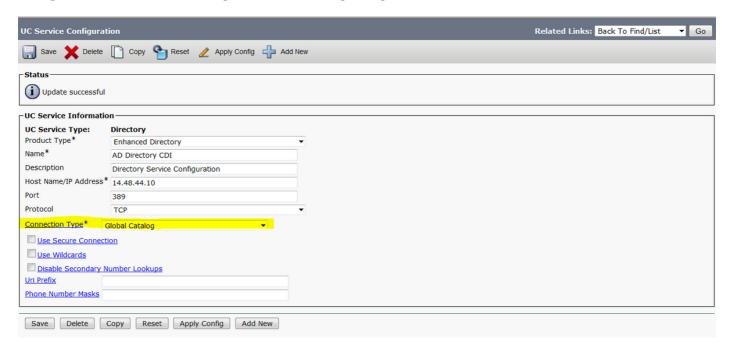
ステップ5:[Unified Communications (UC) Service]ページに移動して、適切な変更を行います。次に、[User Management] > [User Settings] > [UC Service] > [Find]を選択します



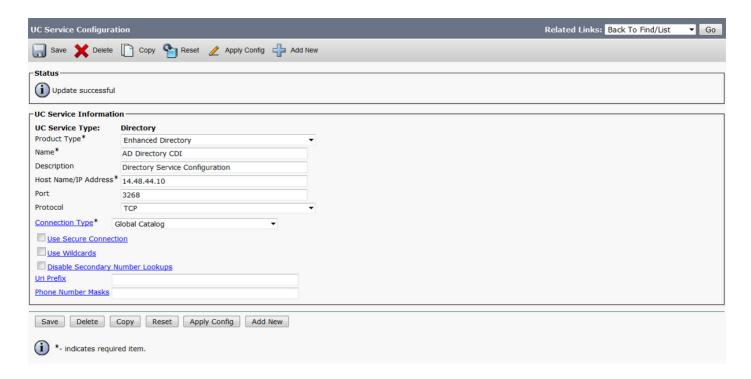
ステップ6:この例では、Directory typeはAD Directoryです。[製品タイプ(Product Type)]で[ディレクトリ(Directory)]と表示され、Cisco Jabber 11.8以降ではサポートされなくなりました。名前を[AD Directory CDI]に変更します。



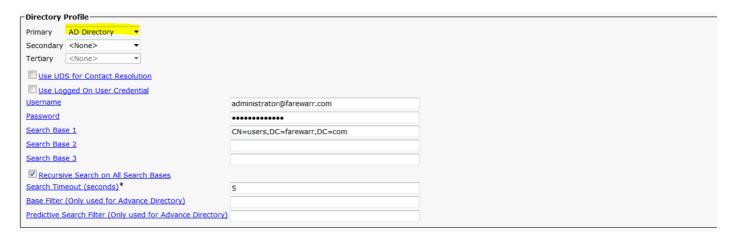
ステップ7:[Product Type]を[**Enhanced Directory**]に変更し、セキュアな接続を使用する場合を除き、[**Use Secure Connection**]をオフにして、[**Save**]を選択します。



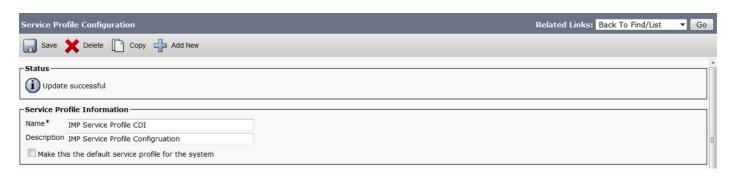
ステップ8:接続タイプを選択し、接続タイプに適したポートを選択します。**グローバルカタログ** = 3268、**LDAP** = 389。グローバルカタログはLDAPよりもはるかに高速で、タイムアウトは発生しませんが、機能するためにLDAPサーバで設定する必要があります。



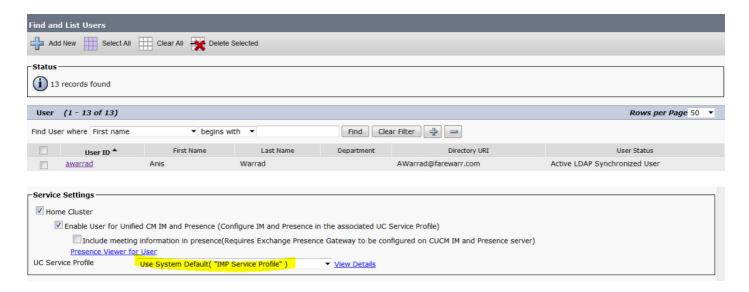
ステップ9:[User Management] > [**User Settings**] > [**Service Profile**] > [**Find**]に移動します。以前に作成した新しいプロファイルを選択し、[Directory Profile]セクションまでスクロールします。



ステップ10:プライマリサー**バを新しい**UCサービスに変更し、[**Save**]を選択します。



ステップ11: エンドユーザに新しいサービスプロファイルを割り当てます。割り当てが完了したら、Cisco Jabber 11.8にアップグレードしてディレクトリ接続を機能させます。[User Management] > [End User] > [Find] > [Select a user]を選択します。



UCサービスプロファイルを作成した新しいプロファイルに変更し、[Save]をクリックします。



Jabber設定ファイルを使用した設定

Jabber設定ファイルのSimple Authentication & No Secure Socket Layer(SSL)を使用したCDIの標準設定の例を次に示します。SSLが必要な場合は、<UseSSL></UseSSL>タグでFalseをTrueに変更します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">

<Directory>

<DirectoryServerType>AD</DirectoryServerType>
<PresenceDomain>farewarr.com</PresenceDomain>
<PrimaryServerName>x.x.x.x</PrimaryServerName>
<ServerPort1>PortNumberHere</ServerPort1>
<ConnectionUsername>usernamehere</ConnectionUsername>
<ConnectionPassword>passwordhere</ConnectionPassword>
<UseSSL>False</UseSSL> <SearchBase1>CN=users,DC=farewarr,DC=com</SearchBase1> </Directory>
</config>
```

変更が完了したら、ファイルをトリビアルファイル転送プロトコル(TFTP)サーバにアップロードし、すべてのTFTPノードでTFTPサービスを再起動します。変更を有効にするには、Jabberからサインアウトし、再度サインインします。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシュート

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- <u>ディレクトリ統合</u>
- <u>テクニカル サポートとドキュメント Cisco Systems</u>